

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率＝予想値÷実績

令和5年2月末	令和5年5月末	令和5年8月見通し	令和5年11月見通し
-12千トン 〔 2107千トン〕 (99.4%)	±0トン 〔 2107千トン〕 (100.0%)	+22千トン 〔 2129千トン〕 (101.0%)	-4千トン 〔 2125千トン〕 (99.8%)
2165千トン (102.8)	2124千トン (100.8)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和5年3月末	令和5年6月見通し	令和5年9月見通し	令和5年12月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は142,000円。前期比+700円。中小物件は冬場の不需要期もあり引き続き低調であった。今年に入り徐々に収益状況が悪化してきた。流通は仕入を必要最低減に抑え販売しているが市中在庫は荷動き低迷から過剰ぎみ。流通は価格維持。製造業関連について建産機は堅調を持続したが、自動車関連の需要は冴えない状況であった	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は141,000円。前期比-1,000円。大型建築物件は堅調だが中小物件は人手不足や資材価格高騰から着工延期や計画見直し等が散見された。市中在庫は需要低迷の影響から若干増加。メーカーの値上げ玉が入り価格転嫁は難航し下値は上がりつつも需要停滞のため上値が上りきれない。収益状況は若干悪化。	建築分野も夏の猛暑の影響と人手不足等による工期遅れ、計画見直し等が出ている。スポット的な中小物件は若干出てきてはいるが、全体的な需要が潤うまでには至っていない。また、多少数量がまとまると安値が散見されている。スクラップ価格は上昇したが需要は低迷しており、在庫が過剰ぎみのため市況は弱含んでいる。流通は価格維持に苦戦している。	例年よりも秋需の気配が感じられず、このまま需要低迷が続くと思われる。また、中小建築案件が少ないことから一部で物件の販売競争となっているため市中価格もまだ弱含んでいくだろう。いまだ人手不足や資材価格高騰など需要が伸び悩む要因は解消されておらず、採算悪化も懸念されており、今後も厳しい状況は続くと思われる。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

7月の仕入量は160,341トン前月比-5.3%、前年同月比+1.5%、販売量は165,011トン前月比-1.5%、前年同月比+1.8%。前月比では仕入量、販売量ともに減少、前年同月比において仕入量、販売量ともに増加となりました。在庫量は219,614トン前月比-2.1%、前年同月比-4.7%、在庫率は前月比、前年同月比とも減少しました。在庫率は133.1ポイントと下降しました。

中小建築案件は現場の人手不足や猛暑が続くなどの影響で工期遅れが生じており、相変わらず低調な動きとなっています。市況については弱含んでおり、下値が広がる傾向です。

4. 大阪

7月、8月は稼働日数が少なかったこともあり、荷動きは減少。9月は稼働日の増加もあり、若干の増加も予想される。建築関係は、相変わらず低位横這いも、道路、橋脚関係はますます良好。価格・需要の不透明さから流通は必要最小限の購入を継続して、大きな変化はなし。

H形鋼は、地域により需要の濃淡が大きいですが、9月に入り建築・土木の見積もりが徐々に増えてきている。10～11月は需要期でもあり増加予想。12月は年々、年末の休みが早まっており、稼働日数で出荷は減少予想。基本的には、需要期で僅かでも秋需に期待したい。